

飛躍

仙台市立錦ヶ丘中学校

第三学年 No. 9

2019. 7. 17

文責 千葉佐和子

命・共に生きる



5日(金)に校長先生より、命についての講話がありました。「東日本大震災」の時に感じた校長先生の思いや今の中学生に考えてほしいことなど、映像を交えてお話をいただきました。生徒たちも真剣に聞き、様々な思いを感じたようです。

下記に何名かの感想を紹介します。



まず、最初に校長先生が3.11の被害を受けた中学校の先生だったということを初めて知り、びっくりしました。3.11が卒業式で津波が学校の上まで届いていて、どこに逃げればいいのかもわからなくなってしまいそうなのに、山に逃げたということを聞いて、慌てず逃げたというのがすごいと思いました。先生が手書きで全員の名前を書いて、一人一人生きていますか確認していて、一番生徒のことを思っていて、あの中学校が大好きだったことがとても伝わりました。私はあのとき、幼稚園生で何が起きているのかもわからず、ただ大人の言うことを聞いて生きていました。あの地震で親や家族、家、思い出などが全てなくなってしまった人、子どもがいるということを聞いて、その子どもたちはどんな思いだったのだろう、どれだけつらかったのだろうと考えると涙があふれました。校長先生がもっていたあの中学校全員が無事だったというのが私もとてもよかったですと安心しました。



自分は当時保育園でお昼寝をしていました。地震が起きて近くの公園に避難をしました。そのとき雪が降っていて、5～6人で円を作って、そこに先生が毛布をかけてくれたのを覚えています。道路が渋滞してお母さんのお迎えがいつもより遅かったです。そのお母さんも亡くした子もいるんだと考えたら、それだけで苦しくなりました。

家があること、家族がいること、食べ物があること、友だちがいること、学校に行けること、全部が当たり前じゃないんだと感じました。私も実際石巻に行って、津波の後を見たことがあります。その背景であんなことがあったんだと知ることができてよかったです。

私は、今まで実際に被災してしまった方々の声を聞いたことがなくて、今日初めてニュースなどのメディア以外から震災のことを聞いた。あの時、私は幼稚園バスの中で、アウトレットあたりの信号で止まっていた。すごい揺れで、とても大きい地震が来ていること、津波が来ることを幼稚園の先生がつけたラジオで初めて知った。その時は津波がどんなものか知らなかった私でさえ、底知れぬ恐怖と不安があったのを思い出した。それなのに、津波などで自分の街が壊されていくのを実際に見てしまった方が、立ち上がり、復興しようと前に進んでいるのは、本当にすごいなと思った。今も私はあの日のことを聞くと、辛かった思い出が溢れ苦しくなることもあるが、そんな時に共に助け合い、支え合うことができるのは、世界の人類の宝なんだと改めて感じた。





被災した人たちは、何も悪いことをしていないのに、家をなくして家族を亡くして、とても不公平だと思った。でも、自分の感情をシャットアウトして他にもたくさん辛い人がいるんだと思うことはとてもすごいことだと思った。もし私がこの立場になったら、がまんなんてできないだろうと思う。いろいろな人たちに助けもらったお礼の太鼓の演奏にととても感動した。実際、映像で観てみて鳥肌が立った。悲しみや苦しみの中で一生懸命演奏していたのを見て、たくましく生きているんだなと思った。

校長先生がこのような経験をしていることにすごく驚いた。とても辛い思いをしているのに、日々生徒たちのために仕事をしていて、改めてすごいと思った。この錦ヶ丘中学校の校長になるのが、とても待ち遠しかったとおっしゃっていたので、その期待を裏切らないようにこれから頑張らなければいけないなと思った。

校長先生が、子どもたちのことを一番に考えていて、たくさん悩んで考えたことを、実現できるという素晴らしい先生だということを知りました。私は、地震による大きな被害をあまり受けていないので、被災者の人たちがどんな思いをして、今にいたるかはあまり分かりません。ですが、今毎日のようにそばにいる友だちや家族、先生方がいなくなると考えると、とても辛いことだと思います。そして、被災中学校の生徒はとても心が強く頑張りやさんな人ばかりだと思いました。そこからみんなでつないだ「太鼓」の演奏も1人1人の思いが伝わっていて、とても感動しました。



これからの生活に生かしていきたいこと

今回の講演を聞いて、改めて感じることを考えたことがあります。親や大事な人などを失ってしまったら私もどうしたらいいか分からない毎日が真っ暗だと思います。でも、被害に遭った人たちは、勉強も部活も笑顔で頑張っていると思うと、私ももっと頑張らないと思いました。どんなにつらくて、いやなことがあっても、もっと大変な思いをしている人もいるんだと思い、あきらめないという心になりました。もし、またあの時のような被害が起きてしまったら、私にできること、ボランティアなど地域の人々の助けになれるようにしたいと思いました。毎日1日を大事に、しっかりたくましく生きようと改めて決意することができました。

このようにとても辛い思いをした人がいるのに、自分はすごい小さなことでくじけそうになったりして、こんなじあだめだなと思った。校長先生が話をしていた西島さんのようになりたいなと思った。あんなに身がポロポロになってまで、人の役に立つというのは素晴らしいことだと思った。自分のことだけでなく、他人のことを気にして助けるような人間に私もなりたい。いつ、また地震が起こるか分からないから地震の対策をしなければいけないと思った。次は、守られる側ではなく、守る側だと思うので、頑張りたい。

今自分ができていることは、当たり前ではないということを理解して生活していきたい。まず、生きていることだけで奇跡だと思うし友だちも家族も大切にしていく。たくさんの命がなくなった、大きな災害があったことを忘れずに、この地震を知らない世代につなげていきたい。

私は、苦しくても前に進もうとする被災中学校の生徒さんたちを見習って、どんなに苦しく、悲しいことがあっても、そこで諦めず、そんな絶望の中にある希望を信じて前に進もうと思った。そして、もしも、辛くて苦しい思いをしている人がいたら、距離や国など関係なく、助けたいと思った。なので、被災者支援の募金箱などがあつたりしたときには、積極的に募金したいと思う。まずは、私が今できることを確実にやっていきたい。そして、全ての人々と共に助け合い共に生きていく。

